

17	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15106004	マイクロ・セルプロセッシングのための熱流 体高機能プロセス発現機構の創成	笠木 伸英(東京大学・大学院工 学系研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>(1) これまでの研究経過：学際的な課題をそれぞれの専門分野の研究者が相互に連携して実施し、現時点までに十分な成果が上げられている。</p> <p>(2) これまでの研究成果：マイクロ混合器・高速スキャンニングに成功しており、今後の高度なMEMSの実現に対する寄与度は高いと判断される。</p> <p>(3) 研究成果の普及性、波及性：今後、当課題によるセルソーターによって各種有用細胞が分離されれば、それらを基に組織再構築が可能になると予想される。しかし、体外での3次元組織形成には細胞培養等にかかり時間を要する筈であり、現時点では、成果の普及性については、予測し兼ねる。但し、臨床応用可能なシステムが完成すれば、普及性、波及性に富むと考えられる。</p> <p>(4) 今後の研究計画・方法：従前に基づいて妥当な計画が立てられている。</p> <p>(5) 今後の研究計画・方法による当初の研究目的の達成：今後の計画に即して研究進展があれば、目的達成は可能である。</p> <p>(6) 研究経費の使用状況：各費目いずれも特に問題無い。</p> <p>(7) 総合評価=A+：工・医両分野の研究者の総合力を結集して、着実に成果を上げつつある。今後の研究計画を順調に進展させれば、当初の目的が達成されるのみならず、社会的貢献も大であると思われる。</p>				
18	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15106005	環境適合型・超高効率プラズマMHD発電機 の連続運転下での発電特性の解明	山岬 裕之(東京工業大学・大学 院総合理工学研究科・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>この分野で世界をリードする研究をこのグループが行っていることは高く評価できる。また、着実に技術レベルが上がってきている。さらに、本成果が得られれば、多くの高温・高効率エネルギー技術開発への波及効果も大きい。しかしながらすでに2年が経過しており、当初計画より実行が遅れていることは否めない。今後は現時点での遅れを取り戻すことと、実験装置の運用や改良を着実にいき、特に目標としているアルゴンの高温化と連続循環運転とをともに実現するために、十分な対応とより一層の努力が必要である。</p>				